

女義大夫が来て奥行せしおあさといふ義大夫又うつぬして又兵三へ素直の  
 女房とたきさりに出奔を合して横濱でおあさと入りて追々金もつひきて  
 諸事不都合あるにけおのさ心覺りして衣類品の持出して行下し  
 孫又兵三へ親類もあつて錢もあつてせんうききや東京で人力車馬の居り  
 国は残り女房へ夫が此れ其目よりあきらむるせも今一度夫とよき手  
 一連は家業精出してついでにまご年をもせきまをうんとおとくし  
 婿とりへの嫁入とせぬかと近所の人々がめあ言葉を耳もろひ  
 丁度六年ひより身のたより夫がかり一歸宅あることなきことたのし  
 風のたより又横濱でくして居ると聞かぬも直  
 其儘身を下へ旅立ちて横濱をさかせと跡も  
 りにもあつせんうきやうく東京の浅草寺ま  
 参詣し門前居る車やと見ゆ匠  
 夫といふひびの復讐屋化のた  
 嫁と縁の真主へ浮気は家名よせ  
 とつる夫とさうともせせと立派は着  
 ざり夫婦づき歸国をせしひるまき  
 真女やいん美婦とやいん

笹木芳龍

大阪錦繪新話



阿波文板

